

第2章 第1節 5 素案

5 効果的、効率的な防除の推進

<骨子案>

- ・ 防除に関する課題と現状を説明。
- ・ 対策の優先度に基づく戦略的な防除を、各主体の連携の下、実施していくことが重要。
- ・ 外来種被害予防三原則に則り、なるべく初期の段階で防除できるように留意。
- ・ 対策の優先度や定着段階に基づく最終目的の達成を見すえた現実的な目標設定が重要。
- ・ モニタリングの実施と専門家の参画により、科学的・順応的な防除を実施することが重要。
- ・ 生態系回復が防除の目的であることを踏まえ、防除による在来種への影響、生物間の相互作用を考慮し、当該地域の生態系管理の一環として、国立公園等の管理や希少種の保全等とも連動させて実施することが重要。
- ・ 様々な主体が同一の種や地域で防除を実施している場合は、多様な主体と連携した防除の実施が重要であり、必要に応じて情報交換の場を設定することが重要。
- ・ 防除に必要な情報を収集するとともに、情報交換の場の設定等により、各防除実施主体において得られた個別の防除成果や教訓を共有・公開することが必要。
- ・ 防除に当たってのその他の留意事項として、殺処分に当たってはできるだけ苦痛を与えない方法で実施することが必要。

<素案>

(1) 現状と課題

- ・ 外来種の新たな導入や分布拡大に伴って、外来種の防除の取組は広がり、また、技術開発や普及啓発が進んだことにより、外来種の地域的根絶や希少種の生息状況の回復、農業被害の緩和等、一定の成果が得られた事例もある。
- ・ しかしながら、我が国に定着した特定外来生物において、現時点で国レベルで根絶に成功した事例はなく、広域に定着した特定外来生物においても一部で分布拡大阻止に成功している事例はあるものの、我が国全体で防除により外来種の分布拡大阻止に成功しているとは言い難い状況にある。
- ・ また、一部の地域で野外に生息する外来種を餌付けしたり、防除の理解が得られない等、外来種問題に関する地域住民等の理解や協力が十分得られていない。
- ・ 防除に取り組む行政機関では、厳しい財政状況にある中で、防除に係る予算や体制を十分に確保することが難しい状況にある。

（２）基本的な考え方

- ・対策の優先度と科学的知見に基づく戦略的・順応的な防除を、各主体の連携の下、実施していくことが重要である。

１）戦略的・順応的な防除

- ・外来種被害予防三原則に則り、なるべく初期の段階で防除できるように留意する。
- ・対策の優先度（被害の深刻度・規模、対策の実行可能性・実効性・効率性等）を踏まえ、定着段階や実施可能な防除の規模等に基づく現実的な目標設定（根絶、拡大防止、低密度管理等）を行い、防除計画を立案した上で、戦略的な防除を実施することが重要である。
- ・モニタリングを行い、適切な指標に基づき状況を把握・評価し、結果を還元することにより、順応的な防除を実施することが重要である。
- ・防除による在来種への影響、生物間の相互作用を考慮し、当該地域の生態系管理の一環として、国立公園等の管理や希少種の保全等とも連動させて実施することが重要である。
- ・より汎用性が高く、きめ細やかな防除マニュアルの作成と共有、技術的な助言を行う防除の専門家の参画、防除手法及び分布拡大の予測評価手法等の研究開発を推進することが重要である。

２）各主体の連携

- ・様々な主体が同一の種や地域で防除を実施している場合は、多様な主体と連携した防除の実施が重要であり、必要に応じて情報交換の場を設定し、各主体の役割分担を踏まえ、連携して防除計画を策定し、防除を実施することが重要である。
- ・防除に必要な基礎情報を収集・共有し、被害の未然防止（初期防除の重要性）や分布拡大予測を踏まえた防除を実施することが重要である。
- ・情報交換の場の設定等により、各防除実施主体において得られた個別の防除成果や教訓を共有・公開することが必要である。

３）防除に当たっての留意事項

- ・捕獲個体をやむを得ず殺処分しなければならない場合には、できる限り苦痛を与えない適切な方法で行うものとする。